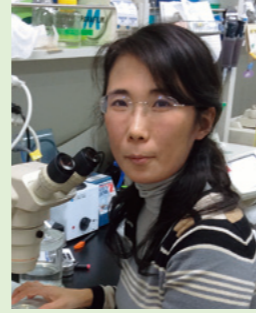


～男女共同参画推進室 室員より～

## 人生を豊かにする働き方を目指して

意識啓発 WG  
生体調節研究所・生体膜機能分野  
准教授 佐藤美由紀



昭和キャンパスにある生体調節研究所で細胞生物学の視点から動物の初期発生の研究をしています。私が学生の頃、周りの教官は毎日夜遅くまで研究室で仕事をしていましたし、それが当たり前風景でした。その後ポスドクのようにアメリカに留学する機会があったのですが、留学先の大学では夕方以降まで研究室に残っている教官は男女関係なく非常に稀で、また男性でも子供が熱を出したからと当然のようにお休みするような環境でした。もちろん職場のシステムの違いもありますが、こんな働き方でもやりようによってはちゃんと成果が出せるのだということを実感しました。また、家庭や仕事以外の時間も大切にしながら働いている姿をまぶしく感じました。男女共同参画の活動は女性のためだけの活動だと思われがちですが、女性が仕事を続けるためには男性も含めて働き方を変えること、またそれができる仕組みや雰囲気を作ることが必要だと強く感じます。女性が出産・育児などのライフイベントを乗り越えて仕事を続けるためにはパートナーの男性の協力が不可欠だからです。男女共同参画推進室の活動はワーク・ライフ・バランスのとれた働き方を目指すものです。ぜひ男性にもこの活動に関心を持っていただければと思います。

～両立支援相談 まゆだま広場より～

## 群馬大学で働く皆様の ワーク・ライフ・バランス充実のために

男女共同参画推進室 まゆだま広場  
両立支援アドバイザー 中村 治美



平成26年7月からスタートした「まゆだま広場」での両立支援相談業務も半年になろうとしています。お蔭様で、「まゆだま広場」の存在も少しずつ認知され、利用者数も多くなってきました。仕事を行う上での両立支援というサービスの一つとして利用者の皆様のニーズに沿って様々なアドバイスをさせていただいております。当たり前のことではありますが、ワークもライフも実際に決断や手続きをするのはご本人ですからアドバイザーはお忙しい皆さんの両立の手助けや応援となる情報の収集や提供などのお手伝いをしています。

悩みや相談になる前の…チョット気になる！チョット困った！チョット何とかしたい！チョット心配！など皆さんの日常の中にある、チョットしたことをつぶやきに「まゆだま広場」にお出かけください。アドバイザーが、経験に基づく情報や実際にリサーチした最新の役立つ情報でサポートいたします。

勤務の都合上お時間を頂く場合もございますが、心を込めて皆様のワーク・ライフ・バランスを応援致します。どうぞお気軽にまゆだま広場と両立支援相談をご利用ください。

### 両立支援アドバイザー在室対応日

- ・荒牧/火曜・木曜 10:00～16:00
- ・昭和/毎週水曜 10:00～16:00
- ・桐生/毎月第4木曜 10:00～16:00

各まゆだま広場で相談に応じます

両立支援相談件数 (平成26年6月～11月現在延べ人数)

区分	相談種別	女性	男性	計
教職員	面談	35	12	47
	電話	2	0	2
	メール	14	3	17
学生	面談	4	4	8
合計		55	19	74

# まゆだま 通信

群馬大学男女共同参画推進室

## News Letter

文部科学省 女性研究者研究活動支援事業

発行  
国立大学法人群馬大学  
男女共同参画推進室

〒371-8510  
群馬県前橋市荒牧町4-2  
TEL:027-220-7146  
FAX:027-220-7143  
mail:kyodo-sankaku@jimmu.gunma-u.ac.jp  
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/

2015.1  
vol.5

## 「研究力アップ講座開催 -研究活動に役立つデザインの基本-」

広報・ネットワーキングWG  
理工学府 教授 山延 健

11月4,5日にそれぞれ昭和、桐生キャンパスで日本女子大学の片山なつ氏を迎えて研究力アップ講座を開催しました。参加者は昭和キャンパスが53名、桐生キャンパスが71名で教職員から学生まで多数の参加がありました。女性優先ということもあり、参加者の7割近くが女性でした。内容は研究発表時のポスターやパワーポイントのスライドのデザインの基本についての講演でした。現在の発表ではPCを用いて資料のフォント、色、形などを容易に変更することができます。しかし、使い方によっては伝えたい内容が正確には伝わらないこともあります。講演ではフォントの構造、性質に基づき適切なフォントの利用に始まり、レイアウトや配色等について説明がありました。また、ソフトウェアにおける小技の紹介もあり、とても参考になりました。個人的にはデザインはセンスが必要と考えていましたが、最低限のルールを守ればわかり易い資料の作成が可能であることがわかりました。

講演の後半では希望した参加者のポスターの添削が紹介され、見違えるようなポスターの変化に聴講者全員がデザインの基本の重要性を認識しました。講師の片山氏は資料作成に必要なデザインのノウハウの普及を目的としたウェブページを運営されており、出版もされています。まゆだま広場では同氏の書籍を貸出する予定でありますので是非ご利用ください。伝わるデザインで優れた発表や外部資金の獲得につながることを期待しています。

### 昭和キャンパス



### 桐生キャンパス



# 群馬大学 女性研究者研究活動支援事業地域連携シンポジウム

ジェンダー・イクオリティ  
女性力=未来力—群馬から発信する男女共同参画—

平成26年11月18日、女性研究者研究活動支援事業(まゆだまプラン)地域連携シンポジウムを大学会館ミューズホールにて開催しました。

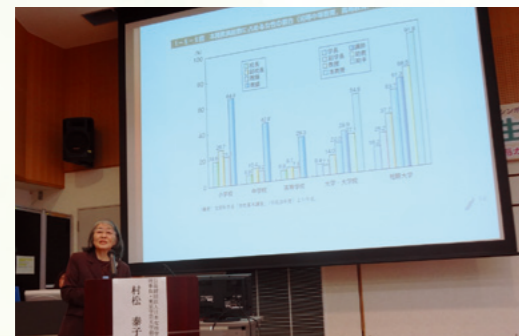
このシンポジウムは、大学内外での男女共同参画の推進に向けて地域との連携を深め、より多くの理解と協力を得ることを目的とし、基調講演とパネルディスカッションの二部構成で開催しました。学内の教職員・学生、関係機関などから200名を超える参加がありました。

高田邦昭学長の開会挨拶の後、末松美知子男女共同参画推進室長から、本学での女性研究者研究活動支援事業の取組の紹介がありました。平成25年度から全学の男女共同参画推進体制のもと、男女共同参画推進室員が中心になり、3つのワーキンググループで事業を展開していること、1年間の歩みを数字で振り返ると、昨年8月から今までの事業参加者数が延べで1200名を超え、学内の賛同を得ながら、3キャンパスで順調に事業を進めていることの報告がありました。



## 基調講演 「大学における男女共同参画の意義」

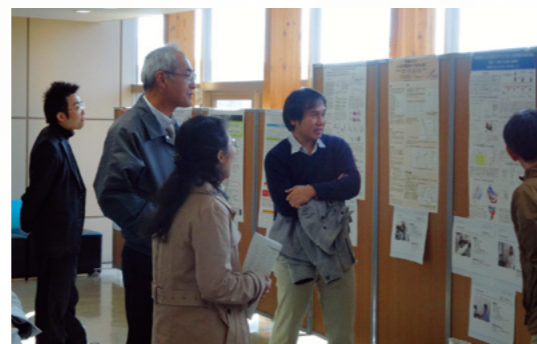
公益財団法人日本女性学習財団理事長・  
東京学芸大学前学長 **村松泰子氏**



村松泰子氏から「大学における男女共同参画の意義」と題した基調講演がありました。まず、小、中、高、大学、高等教育機関の学生・教員のジェンダーバランスのデータを示した上で、日本の教育は本当に男女平等なのかという問題提起をされました。次に、国立大学は、高度な専門性を備えた女性の育成・支援を積極的に担っていく使命があると諭されました。最後に、女性の登用は経営戦略であり、組織の健全化に繋がると強調され、全学的な男女共同参画の推進を継続する事で、「リーダー層に女性がいて当たり前」の景色を創り出すことが重要であると述べられました。

## 研究活動支援利用者 研究成果ポスターセッション

シンポジウムの会場付近では、女性研究者研究活動支援事業で研究活動支援を受けている研究者によるポスター発表を行いました。研究者17名がポスター展示にご協力下さり、そのうち12名(男性4名を含む)の研究活動支援利用者に前半・後半に分かれてポスター紹介を行っていただきました。研究成果と併せて、研究活動支援に取り組む支援者の様子も写真入りで紹介され、研究活動支援の重要性を広く認識していただく機会になりました。



## パネルディスカッション 「群馬の女性が もう一步踏み出すために」

パネリスト  
**茂木英子** 安中市長  
**本多悦子** 群馬県生活文化スポーツ部長  
**原田節子** 株式会社原田・ガトーフェスタハラダ専務取締役  
**平田郁美** 共愛学園前橋国際大学長  
**坂本和靖** 群馬大学社会情報学部准教授  
コメンテーター **村松泰子氏** (公)日本女性学習財団理事長  
コーディネーター **末松美知子** 男女共同参画推進室長

シンポジウムの第二部では、5名のパネリストをお招きして、「群馬の女性がもう一步踏み出すために」と題してパネルディスカッションを行いました。パネリストから、ご自身の経験を踏まえ、未来を担う学生に向けて以下の熱いメッセージが伝えられました。茂木市長からは、30年以上続けてきたボランティア活動とそこで出会った仲間によって今があること、自分たちの暮らしに繋がっている政治にぜひ関心をもってほしいこと等。本多部長からは、新しい仕事に恐れずに挑戦してみることにチャンスだと思って引き受けてほしいこと、自分を支えてくれる家族のことを考えながら仕事をする等。原田専務取締役からは、最大の危機を最大のチャンスに変えること、夢を持ち続け、夢の実現に向けて諦めずに努力してほしいこと等。平田大学長からは、異分野間交流の大切さ、失敗を恐れずとにかくやってみることが自分を変えるきっかけになること、若い人が新しいことに挑戦する機会を大学として教職員の一致団結の下積極的に作っていくこと等。坂本准教授からは、ふとした時に感じる男女の役割意識を乗り越え、妻や母親に訪れたキャリアアップのチャンスを家族が尊重し、キャリアアップの実現に家族が協力してほしいこと等。会場は、魅力ある登壇者の話に引き込まれ、聞き入った様子でした。

村松泰子氏のパネルディスカッション講評に続き、最後に研究・企画担当の平塚浩士理事からまとめの挨拶があり、シンポジウムを締めくくりました。



## 情報交換会 in レストランあらまき

シンポジウム終了後、レストランあらまきにおいて情報交換会を開催しました。登壇者はじめ、大学幹部、室員がテーブルを囲んで、和やかに、今後の大学や地域における女性の育成や活躍促進、支援の在り方について、活発な意見交換を行う会となりました。

